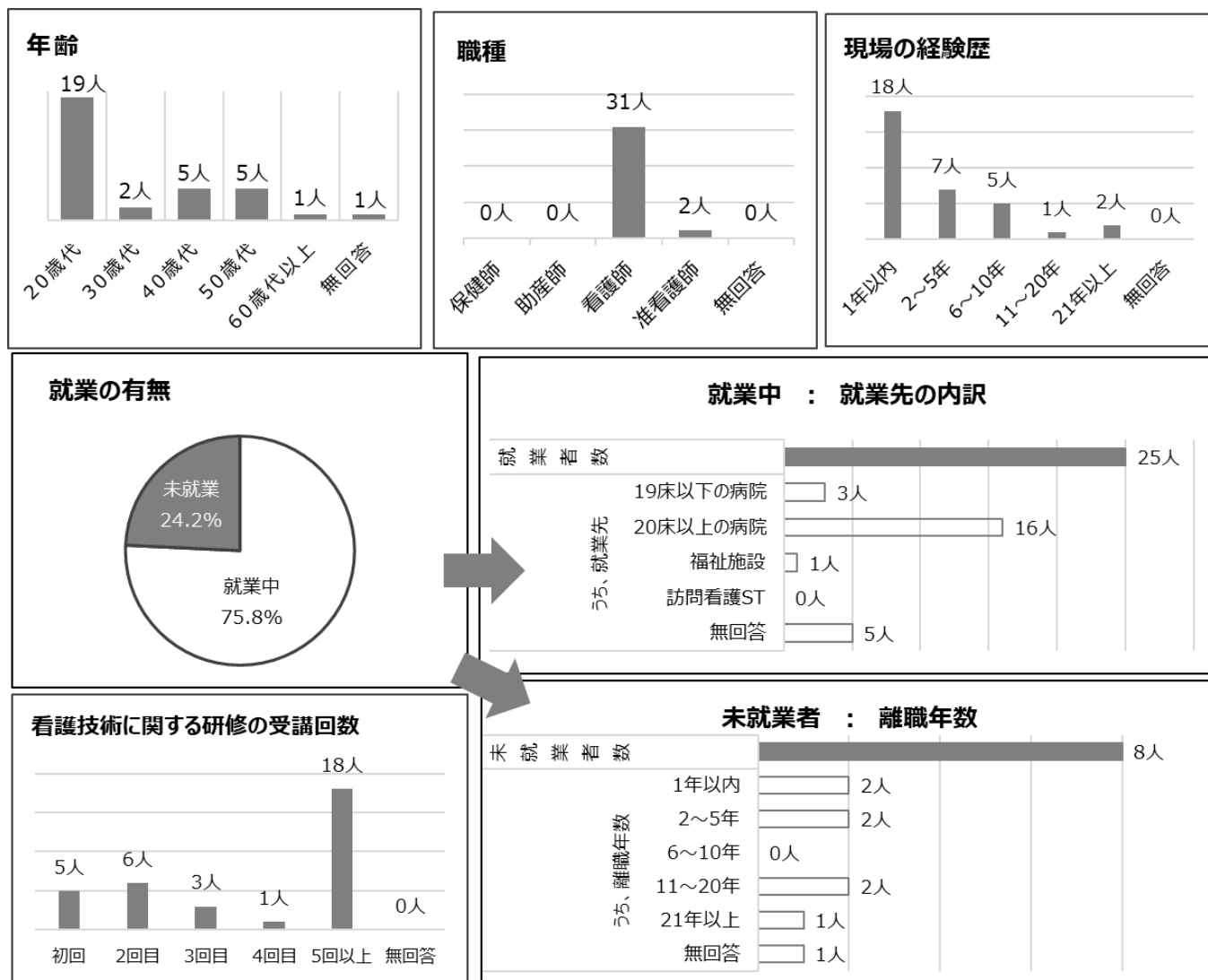


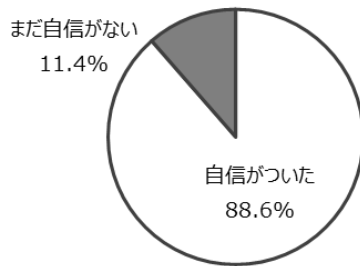
## 看護スキルアップ研修Ⅱ

目的：臨床実践能力の向上・専門職としての自立・施設での役割を推進する。

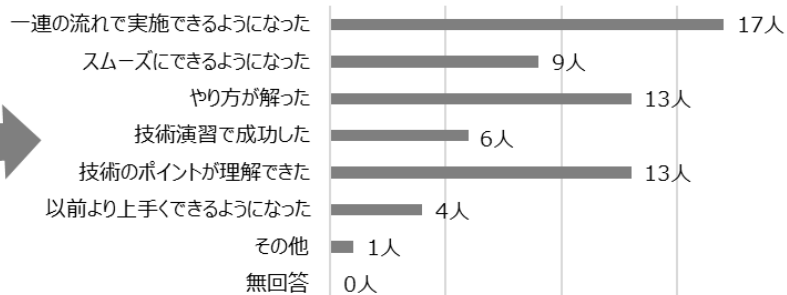
開催日	研修内容	受講者数	会場
8/1（木）	採血・点滴・筋肉注射	11 名	看護キャリア支援センター
9/10（火）AM	採血・点滴・筋肉注射	2 名	看護キャリア支援センター
9/10（火）PM	採血・点滴・筋肉注射	5 名	看護キャリア支援センター
1/21（火）	採血・点滴・筋肉注射	2 名	看護キャリア支援センター
8/28（水）	吸引、導尿・膀胱留置カテーテル	13 名	看護キャリア支援センター



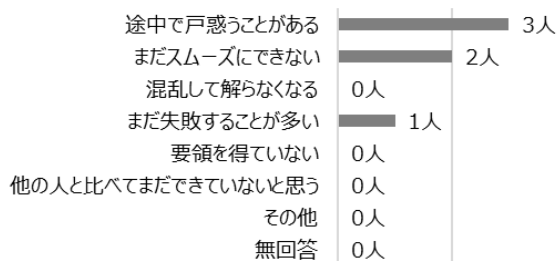
## 就業の有無



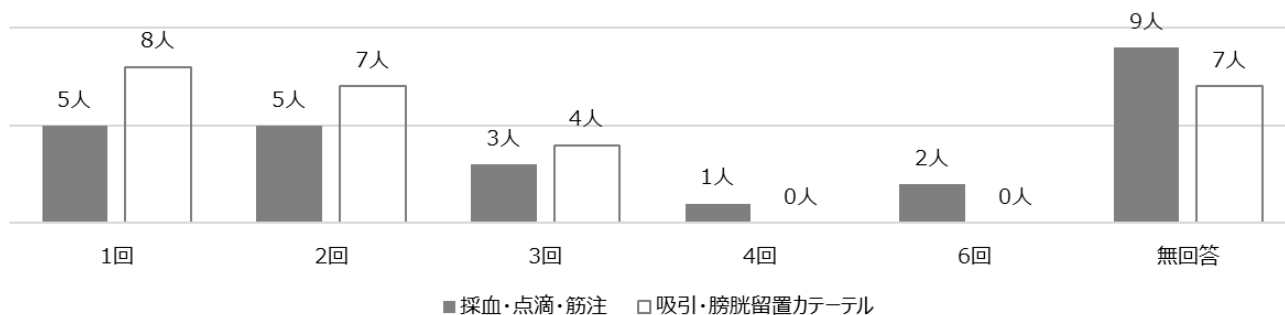
## 自信がついた理由（複数回答可）



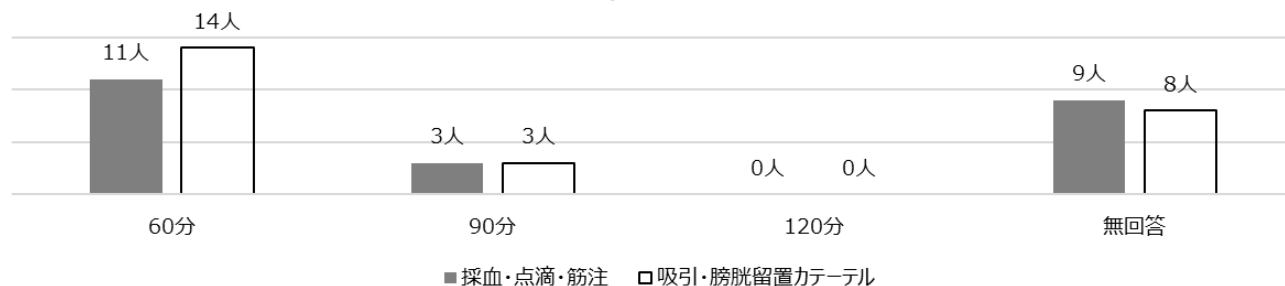
## まだ自信がない理由（複数回答可）



## 希望回数



## 希望時間



受講者数	33人
回答者数	33人
回答率	100.0%

※割合の合計は四捨五入の関係で100%とならない場合もあります。

## 受講者

	病院	クリニック	福祉施設	学校	未就業	計
県央	3		1		3	7
県南	2	1				3
県北	17	1			5	23
離島						0
計	22	2	1	0	8	33

#### <評価>

受講者の背景として、新人看護職員研修や復職支援研修参加者が全体の 80%ほどを占めていた。これは研修時に担当が説明し、受講を促したことが効果的となり、地道な広報活動が良かったと評価する。

研修受講内容で技術演習の講義・e-ラーニング学習受講者は 19 名で、技術演習のみが 13 名だった。内訳をみると、新人看護職員研修受講者は「筋注・点滴・採血」では看護スキルアップ研修Ⅰに参加していたため、実技のみの受講者が多かった。また、「吸引・導尿・膀胱留置カテーテル挿入」は実技研修未参加の為、e-ラーニングからの受講者が 13 名中 12 名と多かった。新人看護職員研修や復職支援研修受講者の参加状況によって e-ラーニング学習受講者件数に影響していた。

研修終了後にアンケート調査を行った。「今回の研修で看護技術について自信がついたか」について「筋注・点滴・採血」回答者 20 名中 1 名の回答にダブリがあった為、「はい」が 18 名（90%）「まだ自信がない」3 名（15%）の回答となった。自信がついた理由としては「技術のポイントが理解できた」10 名（56%）「一連の流れで実施できるようになった」「やり方が解った」各 9 名（50%）が多かった。また、まだ自信がない理由として「途中で戸惑うことがある」2 名（67%）「まだスムーズにできない」「まだ失敗することが多い」各 1 名（33%）だった。「吸引・導尿・膀胱留置カテーテル挿入」受講回答者 13 名中「はい」が 12 名（92%）「まだ自信がない」1 名（8%）の回答となった。自信がついた理由としては「一連の流れで実施できるようになった」8 名（67%）「スムーズにできるようになった」5 名（42%）「やり方がわかった」4 名（33%）が多かった。また、まだ自信がない理由として「まだスムーズにできない」1 名だった。看護技術に自信ができたと判断するためには、看護技術のポイントが理解でき、一連の流れでできたと実感できることが大切である。

#### <課題と今後の取り組み>

本研修は、今年度で終了する。看護職が看護技術への自信を持つことが働く意欲につながるため、基本的知識・技術を学べる内容の研修は必要ではないかと考える。